

和洋女大文家政 ○ 吉原頼子

東京理大工

蟹江 壽

目的 被服構成学実習において立体裁断で得たパターンの平面展開にパーソナルコンピューターを利用することを目的として研究を行っている。今回はベイシックなセットインスリーブの袖山の設計をしその設計図をもとに袖の試作をし、試着を行い各設計図の比較検討をした。

方法 袖山部分を水平方向に6分割し、さらに袖山線から前袖側と後袖側に2分割をした。これらのピースの寸法から袖山曲線の通るべき代表点を求め、それらの点を滑らかにむすぶ袖山曲線を決めた。このようにして決めた袖山曲線をもとに前肩部位、後肩部位を0.5 cm 間隔で3段階に変化させ、袖山曲線の形状及びその長さ(いせ量)を変えた。これらの各設計図にもとづいて袖試料を制作し、従来からの平面製図法による袖山曲線とそのいせ量及び袖山形状の安定について比較検討を試みた。

結果 袖山曲線は8次のLagrange補間式によって代表点にあてはめ、その長さは数値積分によって求めた。従来の採寸による平面製図法のパターンと立体裁断法により平面展開したパターンに袖幅と袖山の高さに差異が生じた。これは平面製図では設計時点でゆとり量が考慮されているためである。今後この点について考えて行きたい。